



不織布ケースでのブルーレイディスクの損傷

CD・DVD用不織布(※)ケースに、テレビ放送を録画したブルーレイディスクを入れ、リング式ファイルに保管していた。先日ケースから取り出し再生したところ、収納していたディスク全てに読取エラーの表示が出た。再生機器を変えても同じだったのでディスクメーカーに問い合わせると、保管に使用した不織布ケースが原因ではないかとのことだった。読取エラーが出たディスクの記録面をよく見ると、細かい不織布の繊維の模様が型押しのようについている。ディスククリーニングしても元には戻らなかったの不織布ケースのメーカーに苦情を申し出たが、当該商品はあくまでもCD・DVD用で、ブルーレイディスク用ではないため、ディスクの損傷に対する補償には応じられないという。ケースの商品パッケージにブルーレイディスク保管には使用できないとの注意表示はなかった。



ブルーレイディスクはDVDに比べ記録容量が大きく、デジタル放送の番組を高画質で長時間録画できる等の利点があり、ここ数年で利用が増えています。

外観的にはCDやDVDとあまり違いがないように見えますが、記録層が読取面のカバー層から0.1mmという浅い場所にあるため、CD・DVDに比べ読取面の傷が記録層に影響を与えやすい構造になっています。不織布ケースのような軟質のケースに収納すると、ケースがブルーレイディスクのカバー層(読取面)と常に接触している状況となり、長時間放置することでカバー層が微細に変形してしまいます。複数枚重ねて保管し、圧力が加わるとさらにそのリスクが高まります。こうして起きたカバー層の微細な変形が記録用または再生用レーザー光の正常な入射・反射を妨げ、読取エラーが発生することになるのです。

今回の相談を受け、センターよりディスクメーカー各社に、不織布ケースによる保管についての注意を商品に記載しているかを問い合わせました。各社は、消費者から不織布ケースでの保管による読取エラーが出たという事例が複数件寄せられ、認識はしているものの「必ず専用のケースに保管すること」という表現にとどまり、明確に「不織布ケースによる保管は推奨しない」と記載しているメーカーは少数でした。また、ディスクメーカーの中にはカバー層に硬質な素材を使用することで、読取面に傷がつきにくいことを特長としたディスクを販売しているところも複数ありましたが、まだまだ消費者へのブルーレイディスクの取扱いの周知は十分でないように思いました。

今回の、CD・DVD用ケースにブルーレイディスクを収納するという使用方法は、予見できる誤使用であると思われたため、センターより不織布ケースのメーカーに対し、今後商品に注意表示を盛り込むことを検討してほしい旨の申し入れはしましたが、補償に当たってもらうことはできませんでした。

せっかく録画したものを長く楽しめるよう、ブルーレイディスクの保管について次のとおりまとめましたので参考にいただければと思います。

【ブルーレイディスク取り扱いの注意点】

DVDに比べ構造上、汚れ・傷があると読取エラーが出やすいので、

- ①圧力がかからないよう、軟質のケースではなく必ずブルーレイディスク専用ケースに保管するようにしましょう。
- ②ディスクを扱う際には、記録面に指紋や傷がつかないようにしましょう。
熱にも弱いので、反り・ゆがみが発生しないように、
- ③保管環境は直射日光を避け、人間が快適と思う温度・湿度を目安に保管しましょう。
(温度15℃～25℃、湿度40%～60%が適しています。)

※ 不織布・・・通常の布のように織らず、繊維を合成樹脂その他の接着剤で接合し、布状にしたもの。



©KANAGAWA2013